

令和元年度 小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画推進委員会 議事録

日 時	令和元年 7月 18日 (木) 14時 00分～15時 40分
場 所	小牧市役所 本庁舎 4階 404 会議室
出 席 者	<p>【委員】(名簿順・敬称略)</p> <p>柴田 謙治 金城学院大学教授 佐橋 均 区長会代表 (市下区長会会長) 大西 良雄 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会代表 坂下 憲司 小牧市小中学校校長会代表 瀬口 幸恵 篠岡地域包括支援センター管理者 羽飼 憲次 小牧市障害者相談支援事業所代表 鳥居由香里 こまき市民活動ネットワーク理事 深堀眞喜子 小牧ケアサービス まごころ代表 大杉 富孝 一寸奉仕こまき代表 森 健一郎 小牧市社会福祉協議会地域支え合い推進員 花村 琴美 公募市民 桑山美知代 公募市民</p> <p>【欠席委員】</p> <p>成瀬 善男 小牧市老人クラブ連合会代表 松浦 詩子 小牧市ボランティア連絡会代表</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 健康福祉部部長 入江 慎介 健康福祉部地域福祉担当次長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 岩下 貴洋 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会地域福祉課長 荒井 成治 小牧市社会福祉協議会地域福祉課地域支え合い推進員</p>
傍 聴 者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料 1：第 3 次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画推進委員会設置要綱 資料 2：委員名簿・会場配置表 資料 3：施策管理シート 資料 4：各種計画スケジュール</p>

○ 主な内容

<p>1. 開会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 委嘱状の交付</p> <p>(3) 会長選任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員より、柴田委員を推薦。 <p>⇒ 柴田委員を会長に選任。</p> <p>(4) 会長あいさつ</p>
--

2. 議題

(1) 第3次計画の進捗状況について

- ・ 資料3を用いて、地域包括ケア推進課 江口課長、社会福祉協議会地域福祉課 田中課長より説明。

1 福祉教育を通じた人材育成の充実

① 小・中学生から高校生、大人までつながる福祉教育の充実

坂下委員)

- ・ 地域包括支援センターからの働きかけもあり、子どもたちが様々な勉強をさせていただいている。
- ・ その中でも、認知症に関することでいえば、分かりやすく伝えるため、見事な劇をやっていただき、その後、自分たちは何ができるか、どのようなことに気をつけたらよいかなどについて考えるきっかけになっており、また、オレンジリングをいただけるので、非常にありがたいなと思っている。
- ・ ただ、資料にあるとおり、学校として、やることがたくさんある中で、時間を確保していくのが難しい状況にあり、課題だと考える。

柴田会長)

- ・ 小牧市では、以前からジュニア奉仕団という小牧市独自のすごく良い活動がある。
- ・ 3次計画では、ジュニア奉仕団で終わってしまうのではなく、高校生など含め、ココボラという活動にバージョンアップしているのは非常に良いことではないかと思う。
- ・ 福祉教育の実施に向けては、また、先生方の多忙化に配慮しながら、良い進め方をお願いしたい。

② ボランティア勉強会の継続

羽飼委員)

- ・ ボランティアセンターと同じ小牧市社会福祉協議会に勤めているが、ボランティアセンターとは、どのような勉強会を開催すると良いかなど企画の段階から相談しながら進めている。
- ・ 今後もボランティアのニーズを聞きながら、こちらとしてもボランティアの方々に知ってもらいたい事項を入れていけるように連携していきたいと考える。

③ 誰もが参加できる地域福祉活動の推進

大杉委員)

- ・ 移送関連の保険メニューについて、申込団体数を教えていただきたい。

事務局)

- ・ 現状では、1団体の利用もない状況である。

大杉委員)

- ・ 1団体もないというのは、利用するような活動をしている団体がないのか、団体があっても使いにくいのか、移送事業というのは、保険があるからボランティア活動の範疇でできるのか否かについて、よく検証していただきたいと思う。

鳥居委員)

- ・ 市民活動ネットワークとボランティアセンターが協働によりPRを行ったとの報告がある
- ・ 市民活動ネットワークとしては、ボランティアセンターとの協働が、PRだけでなく、イベント、企画などができるようになってきており、とても良いことだと考える。
- ・ 今後もこういう関係性を維持しながら、活動を推進したいと考える。

深堀委員)

- ・ 既に活動を20年近くやっているが、やはり継続していくためには、ボランティアの無償だけでは、様々なニーズへの対応には限界があると考え、有償活動という形を取っている。

④ 福祉人材の育成（福祉講座の充実）

瀬口委員)

- ・ 福祉人材の育成について、各地域包括支援センターやサロン、認知症カフェなどにおいて、各地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員が中心となり、取り組んでいるところである。
- ・ 認知症地域支援推進員で構成する部会があり、地域の皆さんがどのようにステップアップをしていただけるか、また、その周辺の方に、こうした活動等についてどのように関心を持っていただければ良いか、そのようなことを考えながら、企画、実施している。
- ・ 地域包括支援センターとしては、地域支え合い推進員などと話し合いをしながら、地域に出ている、話をしながら、事業を推進している。

桑山委員)

- ・ こまき山体操という介護予防体操があることを初めて知ったが、ユーチューブなどで動画を見ることが出来るのか。
- ・ 知ってもらえる機会として、そうしたものと良いのではないかと。

大西委員)

- ・ グループがやりやすい方法で実施するのが一番良い。
- ・ 実際、光ヶ丘の老人会で週1回開催してきているが、私自身、握力が1割アップした。
- ・ この体操は、それぞれのペースで負荷を変えながら出来るところが良い。

桑山委員)

- ・ ネーミングがとても良く、見てみたいと思った。

大西委員)

- ・ それに合わせてやるという意味ではなく、基本的には、映像はあっても良いと思う。

深堀委員)

- ・ こまき山体操は、準備体操、筋力アップ、整理体操の3層からなっており、音楽や動画などを見て行うのではなく、自分たちのペースで実施するものである。
- ・ あえて音楽を流し、それに合わせて実施するものではなく、来られた方の体調や身体状況を観ながらやることのできるものであり、取組みやすい体操だと思う。

大杉委員)

- ・ 行政と社会福祉協議会では、サロンや認知症カフェの設置を推進されているわけだが、両者は、内容は似ているが、意味合いは違うものとする。
- ・ ステップアップ講座やフォローアップ講座に関する報告の中で、開催方法や内容について再考するとあるが、何か動機があったのか。

事務局)

- ・ これまで、ステップアップ講座については、認知症カフェの担い手を意識する中で開催してきた。
- ・ そうした中、認知症の知識を深めたいというニーズに対応するため、昨年度は、フォローアップ講座を開催したところであるが、本来、ステップアップ講座にもこうした知識を深める目的もあったところであり、講座のあり方について、見直す必要があると考える。
- ・ また、講座の内容ではないが、受講後の活躍の場について、少し物足りなさを感じるという声もいただいております、こうした意見も踏まえながら、検討していきたいと考えています。

大杉委員)

- ・ 住民の中には、気持ちがあり、認知症カフェに協力されている方が一生懸命やっているところであるが、知るべきこと、やるべきことについて学ぶ機会がない。
- ・ ぜひ、そうした内容を含めた講座にしていきたい。

柴田会長)

- ・ 他の自治体では、体操のDVDを作成し、サロンなどに配布している自治体もある。ぜひ、参考にしていだければと思う。

2 支援を必要とする人を支えるネットワークの構築

⑤ 各地域でのニーズ発掘・課題共有の場の設定

柴田会長)

- ・ 地域における活動単位として、中学校区は余りにも広過ぎる。小学校区でもやはり少し広いというのがある。
- ・ こういう考えのもと、ふくし座談会では、もう少し顔が見える単位ということで、区を単位として、より身近なところに、行政と社会福祉協議会が入り込み、地域住民の方と一緒にお話をするという良い流れで、活動を展開している。

佐橋委員)

- ・ 11月に村中小学校の防災訓練を開催するため、消防職員と打合せを行っているところである。
- ・ そうした中、行政から民生委員などに避難行動要支援者台帳が配布された。
- ・ 本来、この台帳に記載されている要支援者にも訓練に参加してもらいたいが、なかなか参加されないわけで、課題だと思っている。

鳥居委員)

- ・ 本庄小学校区でも防災訓練を実施しているが、立地的な課題から、小学校への避難が難しい地区もあるのが現状である。
- ・ 中には、別の小学校の方が避難しやすい地区もある。
- ・ 要支援者は、高台には避難できない。
- ・ そのため、区を単位とした取り組みが基本になると思うが、隣の区との連携や区境の要支援者対策など、現実にあった活動支援が必要になると考える。

森委員)

- ・ 先ほど、佐橋委員が言われたように、要支援者の方の状況によっては、訓練に参加できないこともあり、安田区では、そうした方の状態を知り、それぞれの状態にあった支援を行うための体制づくりに向けた支援に入った。
- ・ 具体的には、要支援者に対し、安否確認員を張り付け、声かけ、安否確認をし、会館で情報を集約するというものである。
- ・ 中には、要支援者を連れて、会館に避難される方もいた。
- ・ こうした活動をモデルケースとして、他の地域に広げる動きを取っている。
- ・ そうした中、昨年度、本庄小学校区の防災訓練にも参加させていただく予定であった。結果的に、訓練自体が中止になってしまい、実現しなかった。
- ・ 先ほど、鳥居委員から話があったように、本庄小学校区内の一部の地区では、既に小学校の訓練に併せて、区単位で安否確認を実施しており、昨年度は、そうした区で集約した情報を小学校で集約する動きや、安否確認を実施している風景を小学校で視聴する、更には、要支援者支援制度に関する説明を実施しようと考えていた。
- ・ 今年度、再度、地域の方々と相談し、実施に向けて調整していきたい。

⑥ 地域福祉に関する適切な情報提供

大杉委員)

- ・ 地域支え合い推進員だよりを発行されているということで、民生委員・児童委員に配布したとあるが、区長には出さないのか。
- ・ 地域福祉の課題も含め、区内で困った問題、課題などは最終的には、区長に相談が入る。
- ・ こうした知識を得ることは、そうした際の手助けにもなり、伝えるべきだと考える。

柴田会長)

- ・ ホームページの閲覧数は、分からないとのことであったが、情報の開示、提供はすべての基本になる。
- ・ ぜひ、積極的な情報提供に努めてもらいたい。

3 地域住民のネットワークを支える体制づくり

⑦ 総合相談体制の充実

森委員)

- ・ 昨年度は、モデルで実施したものを今年度は、全圏域に広げ、サロン巡回相談を開始した。
- ・ 現在、78箇所のサロンが開設されている中で、平均して年間4,5回の巡回を実施する予定である。
- ・ 巡回相談というものの、相談だけを目的としているのではなく、サロンの担い手、サロンの参加者などと顔を合わせる中で、地域を知る貴重な機会になっていると感じている。
- ・ こうした地道な活動を通じて、地域の方に知ってもらい、相談しやすい環境づくりに努めたいと考える。

大西委員)

- ・ 民生委員・児童委員は、3年が任期となっており、今年が3年目になっている。
- ・ そういう意味で、活動が分かってきたということもあり、相談件数等は伸びているのだと考える。
- ・ 実際、毎月の活動実績を集計して感じるのは、活動件数が伸びている状況にある。
- ・ 一方で、こうした活動が増えたこともあり、なり手がいないという問題も抱えている。

4 地域見守り活動の充実

⑧ 【集う見守り】居場所づくりによる見守りの充実

鳥居委員)

- ・ 健康講座を実施されているとのことであるが、ボランティア団体の中にも歯科衛生士の方が活動されている団体もいるので、ぜひ、活躍してもらえるとよいと思う。
- ・ また、高齢者などは食の偏りの問題があるため、管理栄養士の方による食育講座を展開するとよいと考える。

大杉委員)

- ・ 桃花台周辺地区のサロンに携わっているが、皆と顔を合わせたり、お話をするなど楽しみが中心の運営がされている。
- ・ その中で、篠岡地域包括支援センターが振り込み詐欺などの特殊犯罪に巻き込まれないような啓発をするため、寸劇形式による説明をしているが、非常に分かりやすく評判が良い。
- ・ 地域支え合い推進員がサロンに来て、相談を受けると助成金や支援に関する相談はすぐに入ると思われる。しかしながら、プライベートな相談になるとなかなか出てこない。
- ・ 先ほど、森委員が言われたように、顔の見える関係づくりを地道に行っていくことが必要だと考える。

大西委員)

- ・ 老人会や老人福祉センターにおける取り組みに関する記載がないが、特に老人会は、貴重な資源

であり、様々な活動を展開している団体である。

- ・ こうした団体が衰退してきている現状があるなか、行政や社会福祉協議会として、活動が継続されるような支援をすべきであると考え。

花村委員)

- ・ 各委員の活動状況や報告をお聞きし、大変、参考になった。
- ・ 私自身、サロンの運営に携わっており、今回、お聞きした事項を活かしていきたい。

⑨ 【出向く見守り】住民主体の訪問活動による見守りの充実

- ・ 特に意見なし

5 災害時に備えた支援活動の充実

⑩ 避難行動要支援者などに対する情報伝達・活動支援

鳥居委員)

- ・ テーマが情報伝達と活動支援となっている。
- ・ 今、説明があったように、情報伝達に向けた活動は展開されているが、活動に向けた支援の充実が求められるところである。
- ・ 実際、声をかけて何をするのか。要支援者からすると何をしてもらえるのかということが一番、気になるところである。
- ・ 静岡などでは、実際に車椅子の方を複数名で避難支援するなどの訓練を実施しており、そうした活動が見えてくると登録率も上がっていくと考える。

大杉委員)

- ・ 昨年、区長会で箕面市に視察に行き、担当者から話を聞いた。
- ・ 大震災を経験した箕面市でも、平常時は真剣さが足りないといったことを話していたのが印象的であった。
- ・ そうした取り組みの中で、被災した場合、どの程度の方が声かけが出来るのか分からないのことから、無事である意思表示をするため、黄色いハンカチを掲げるといった取り組みを展開されていた。参考にしてほしい。

柴田会長)

- ・ 災害ボランティアといえば、大阪の方では阪神大震災を契機に関西地区では盛んになっているところである。
- ・ その中で、一番有名なのが、豊中市社会福祉協議会であるが、その地区も、大震災でコミュニティが崩壊したこともあり、地域福祉に力を入れてきたところである。
- ・ 色々と参考になる事例も多く、情報を得ながら事業を推進されたい。

(2) 地域福祉計画及び地域福祉活動計画の計画期間について

- ・ 資料4を用いて、地域包括ケア推進課 江口課長より説明。

柴田会長)

- ・ 事務局から説明があったとおり、3次計画の策定後、社会福祉法が改正され、地域福祉計画が他の福祉系の計画の上位計画に位置づけられた。
- ・ 従来、地域福祉計画は5年間の計画期間としてきたが、他の福祉系計画と整合を図るためには、福祉系の計画の期間を合わせるのが妥当であると考えますが、どうか。

⇒ 委員より賛同の声

【閉会】